

地上4かい・地下1かい建てのルナ ホール

市民会館の
新しい施設

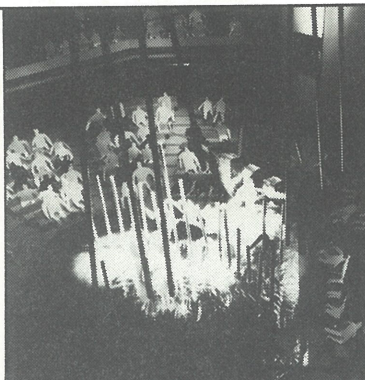
『ルナ ホール』 2

文化を守り高めよう 6

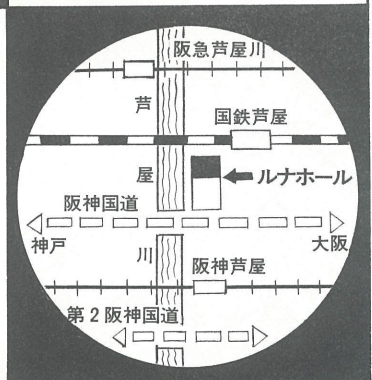
5カ国の交通警官が宮小へ 7

社会科訪問 国立京都国際会館 8

ホル ル ルナ



模型によるルナホールの場合 ▶



五通りに変わる舞台

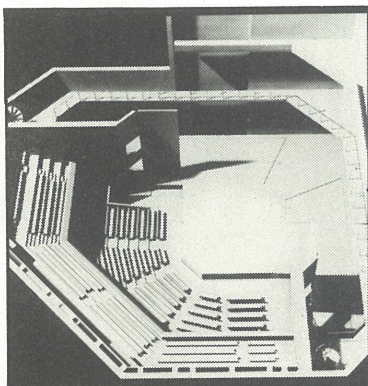
なぜ、ルナホールはつくられたのでしょうか。要するに「市内にも国際文化住宅都市にふさわしいホールがほしい」という多くの市民の強いねがいがみのつて、ホールはいよいよ四月八日に開場、わたくしたちも手近かなところで本格的な舞台での催しものを鑑賞することができるようになりました。

さまざまな経過の中で「ではどんなホールにするか」という点に市役所の人たちはもつとも苦労をしました。劇場ならば演劇やおどりができる設備があればよく、映画館ならば映画をうつす設備があればよいのでしようが、全市民がいろんな目的に利用する公共の施設としてのホールをつくるのですから、そうはいきません。能や狂言のような古典芸能はもちろん、演劇、おどり、音楽、映画、講演などもよおし、あるいは文化祭、子ども会、さらには式典と

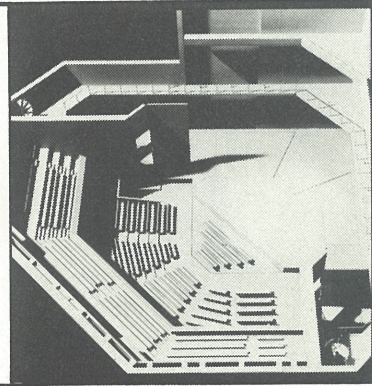
《取材した人》

精道中学校2年 【演劇部】原田佳子さん、大屋良子さん、【合唱部】住谷和代さん、大原登喜枝さん

山手中学校2年 【プラスバンド部】阪本泰則くん、辻村千秋くん
【合唱部】佐々木千枝さん、池田忍さん

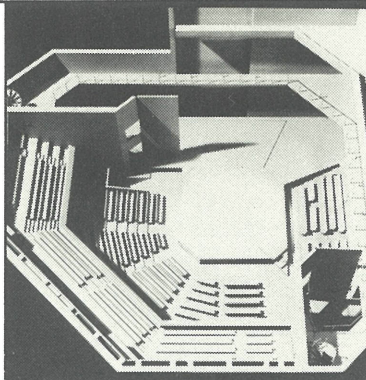


普通がくぶち舞台のかたち ▶



◀ はり出し舞台のかたち

《ルナ ホール》とは
 ルナはラテン語で「月」
 という意味です。市民会館の
 ホールは、月時代にふさわし
 いほどの装置や設備、ふんい
 気をそなえていることなどか
 ら、この名をつけました。



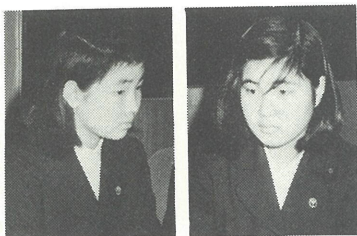
◀三方かこみ舞台のかたち

か会議にといつたぐあいに、多目的
 利用にこたえられるホールでなけれ
 ばならないのです。

つぎはホールの大きさです。ほか
 の市のホールなどは、だいたい千人
 以上がはいれる広さになっています
 が、芦屋の人口は六万七千人で他市
 にくらべて少ないうえ、ホールを建
 てる土地もそれほど広くはありません。
 そこで、これをルナホールの特
 長となるような面に生かそうと、収
 容人員を最高九百人ほどの建ても
 にして、お客さんと舞台の人とがと
 けあうことのできるホール、そして
 使う人がその目的によって舞台の形
 を変化できる機能をもそなえたホー
 ルが誕生することになりました。

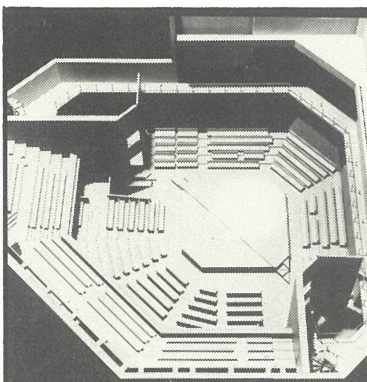
なら六百四十席、三方かこみ舞台の
 ときなら七百三十五席、四方かこみ
 舞台のときなら七百九十席、円形舞
 台のときならもつとも多くなつて八
 百八十席になります。

座席の前へはり出す台形のような
 部分は機械で上げ下げができ、普通
 がくぶち舞台と同じ高さにまでせり
 あげるとはり出し舞台になり、床と
 同じ高さにすればいすを置いて客席
 になり、もう少し低くすればオペラ
 などのときのオーケストラのはいる
 ところになり、地下までおろせばこ
 こにピアノや大道具をのせて舞台ま
 で運び上げることができます。舞台
 後方の床板は、はね上げ式です。

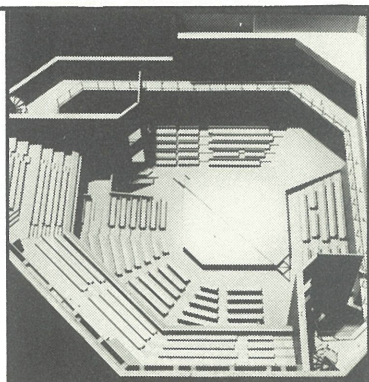


【以上の担
 当】佐々木
 さん（写真
 右）と池田
 さん（写真
 左）。山手
 中学校二年
 合唱部】

四方かこみ舞台のかたち▶



◀円形舞台のかたち



みんながつくる舞台

五つの舞台の形が紹介されましたから、わたくしたちは、「第六の舞台」について考えてみました。これが、使う人たちのつくる舞台です。

普通がくぶち舞台の場合、その後方にあたる床板は、七枚に分けて機械ではね上げることができずからまん中の一枚だけをはね上げます。

そうしますと、舞台中央のうしろにぽっかりと穴があきます。ここに大きなビニールをうまくはって水をは入れたなら、いままで舞台の上では見かけだけしかつけれなかった池が、

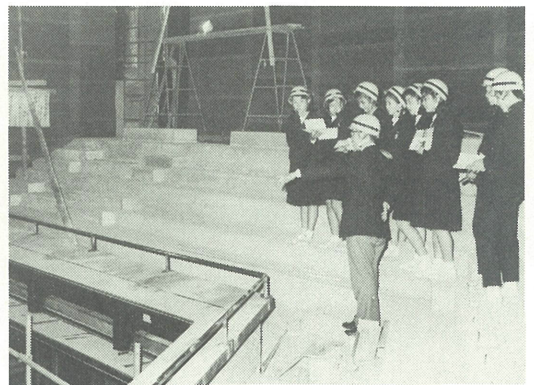
ほんとうにつくれますし、劇中、必要であれば魚などを実際にいれてもおもしろいと思うのです。

こんなことも考えられるのではないでしょうか。舞台は、主人公の家の場面。舞台を暗くして、かわりに二階席の最前列の一角所にライトをあてます。そこには主人公がいるのです。主人公は、公園のベンチに

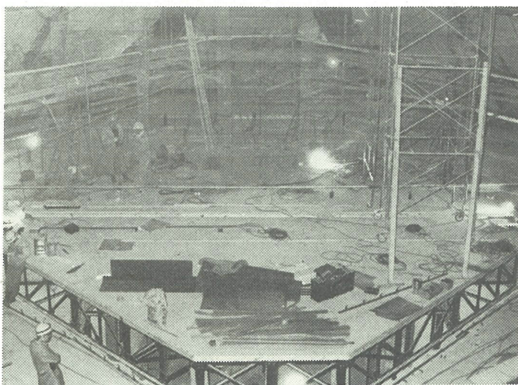
あてられていたライトが消えて、舞台が明るくなりました。家の場面ではその家族が演技をします。いつの間にか舞台わきへもどっていた主人公は、やがて舞台へ姿をあらわします。公園から帰ってきたように……

【この記事の担当】大屋さん（写真）と原田さん（写真）
真左）精道
中学校二年
演劇部

これなら舞台上での暗転はいりません。しかも、ホール全体を舞台として使うことは見る人を劇の中に引きずりこみ、演技者と観客がほんとうにとけあつていくと思います。

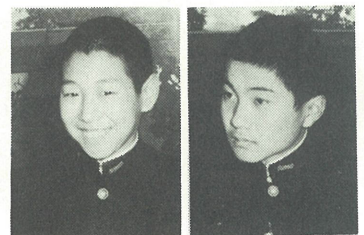


ルナホールの二階席の一部



二階席正面から見たステージ

【次の記事の担当】阪本くん（写真）と辻村くん。山中中学校二年。プラスバンド部



守りたいこと

四月八日、ルナホールは開場します。これを記念して多くの行事がありますし、その後もいろいろな催しに使われて全市民から親しまれるホールになると思います。そしていつ来ても全市民が心から楽しめるようにするためには、おたがい、だれもが守らなければならぬルールがあります。ルナホールに限らず、すべての公共施設をよごさない、だいじにする、というようなことはもちろんですが、何かの催しをするホールでは、とくに、演奏へ

地下に小ホールなど

ルナホールを外からみますと、四つの角を切り取った立方体のような形をしています。ふつうのビルとちがって窓がなく、ただのコンクリートのかたまりのようです。上を見あげると、一部分がさらに高くつき出ています。この下が舞台にあたるわけです。わたくしたちは、この舞台以外のことについてみなさんにご紹介します。

まだ工事中だったホールの内部を見学し、くわしい説明を聞かせてもらったわたくしたちは、たいへん近代的な感覚があらゆるところにもりこまれ、すばらしい設備のととのうホールになることを知っておどろきました。まず、ホワイエです。これは入口をはいつたところの待ちあいロビーで、壁も床も天井も、そしていすも全部が黒で統一されます。理由は、おちついた感じを出し、それ

にお客さんのどんな色の服装ともよく調和するからです。次は、ホールの天井が金網ばりになっていることです。金網は、その奥にある照明部であられると光を乱反射し、ホールのすみずみまで明るくします。また赤、青、緑の三色の光線と金網が、いろいろのふんい気をかもし出します。調光室は、この照明はもちろんのこと、ホール全体の照明を演出するところですよ。ほかに、音響調整室や映写室、楽屋、あるいはエレベーター設備などをみて、地下の小ホールへ行ききました。ここは約二百人がはいれる広さで、おもに練習場として使われるだろうということから、舞台の後方にあたる壁には大きな鏡がはりめぐらされていました。まだ知らないこのほかの設備が、ホールへ行くたびにわたくしたちをおどろかせてくれることでしょう。

【以上の担当】

当り大原さん

（写真右）

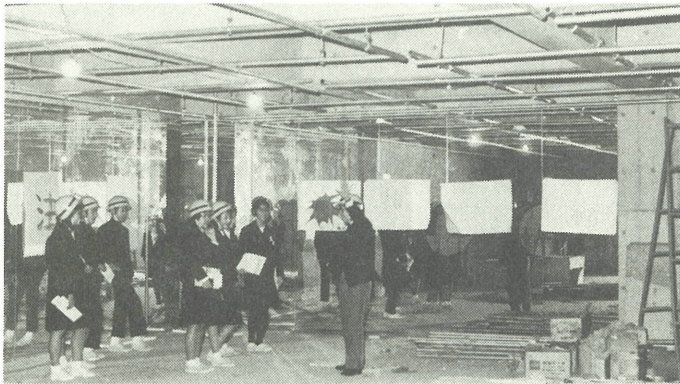
と住谷さん

（写真左）

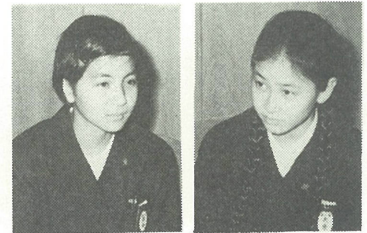
精道中学校

二年。合唱部

部



鏡をはった地下の小ホール



「や演技や話しをする人などにとつて、やりやすいふんい気をつくらなければなりません。そのための一つとして、たとえば赤ちゃんはあるべくつれて来ていただきたくはありません。二つ目に、まじめに聞きそして見る態度をもちたいと思います。出演者も観客も一体となって楽しむという形がもっとも望ましいことですから、観客は出演者の身になって聞くときには聞き、いつしよに歌うときには歌い、そして惜しみない拍手を送りたいものです。」

出演者もまた、その日のために練習をしてきたのですから、ベストをつくしてお客さんの期待にこたえねばなりません。ぼくたちブラスパンド部も、四月十九日の記念行事「市民音楽会」で、演奏を聞いていただくことになると思います。いつしようけんめい、がんばります。

なお、ルナホールの記念行事プログラムは、毎月発行の「広報あしや三月号」で発表されます。

文化をまもり 高めよう

大江 一男 (市立公民館長)

日

本には三千三百近くもの市や町や村があつて、それぞれ特色のあるくらしがいとなまれています。

みなさんの中には、ほかのまちに住んでいた人や旅行をした人がおおいにいると思いますが、「ほんとうに住みよいまちとはどんなまちだろう」と考えてみたことはあるでしょうか。氣候がよい、けしきが美しい、交通がべんりだ、ハエやカがいけない、などもその条件としてあげられるでしょう。しかし、ほんとうにたいせつなのは、そこに住んでいる人々が「わがまち」をいとおしみ、自分たちの力でま

ちのくらしや文化を高めようという気持をもっていることだろうと思うのです。

芦

屋は、たくさんのまちの中でもゆびおりの住みよいまちだといわれています。それは、自然の美に恵まれたまちで市民のひとりひとりが自分に役立ついろいろな活動に参加し、また、お

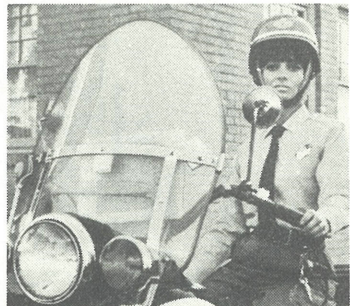
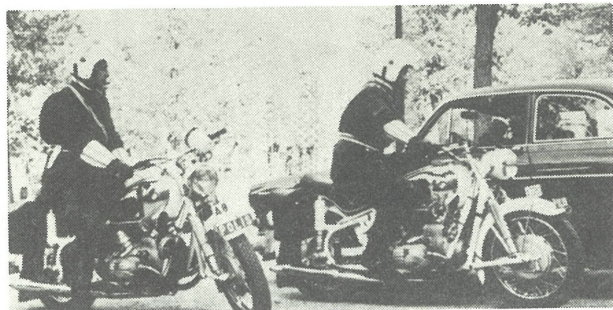
たがいに全市民のくらしや文化をまもり、高めようと力をあわせているからです。こうした芦屋の文化活動はいくつの特長をもっています。その第一は、広く世界につながる国際的な活動が活発なことです。もともと国際的

なしごとをしておられる市民が多いうえに、昭和二十六年にできた法律によつて芦屋は国際文化住宅都市としてのまちづくりを進め、三十六年にはアメリカのモンテペロ市と姉妹都市になりました。また昭和三十五年にできた芦屋ユースホステルとか、三十九年に建てられたスイスについて二番目の兵庫県ユネスコ会議など、国際交歓の舞台ともなる施設が加わりましたので、外国との交流、外国をじゅうぶん理解しようとする研究会、日本の文化を外国に紹介する活動はいっそうさかんになりました。

学校でも、山手中学校と精道小学校は、外国からかえってきた子どもの教育について研究する指定校になつていますし、市立芦屋高校、精道小学校、山手小学校はそれぞれモンテペロ市の学校と姉妹校になり、作品の交換や手紙のやりとりなどをおたがいに勉強しています。

第二は、つくり出すよろこびをあじわおうとする芸術的な活動がさかんなことです。絵、ちようこく、写真、書道、お茶や花、おどり、邦楽、演劇、合唱、オーケストラなどいろいろの芸術についてたくさんグループがあり、それ

スウェーデンの交通警官

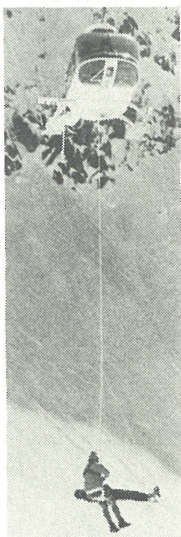


↑サンフランシスコの婦人警官
←船から水上の交通整理…タイ

5カ国の交通

警官が宮小へ

交通事故ゼロのねがいをこめて、朝日放送が世界の交通警官を万国博覧会へ招きました。3月18日には、51カ国のうちスウェーデンとスイス（ヨーロッパ）、サンフランシスコ市（アメリカ）、タイ（アジア）、タンザニア（アフリカ）の5カ国20人の交通警官が、午後1時宮川小学校を訪問して全校生と会い、交歓します。宮川小学校では5年生が中心になり、1年ほど前から文通をしていました。 ©朝日放送提供



山のそうなん者をヘリコプターで救出（スイス）

きん張するスウェーデンの警備警官



らのグループの人たちは、おもに公民館（市民会館）で展らん会や発表会をつぎつぎに開いておられます。みなさんから待ちのぞまれていたルナホールもできあがり、四月から開場します。これからがつそう楽しみです。

第二は、いくら年をとつても自分のすきな勉強や研究をつづけようとするグループがたくさんあることです。「源氏物語」のような古典を学ぶグループ、歴史や文化財を研究するグループ、正しい話しかたを勉強するグループ、あるいは専門的な講座に参加する人たち…。こうした市民は

すきなことにうちこみながらしげんに伸よくなり、みんなで芦屋のくらしや文化を高めるようなはたらきをしてくださっているのです。

おして自分たちが力をあわせみんなのくらしや文化をまもり、高めていくのだという気持ちで、一生もちつづけることがたいせつになるだろうと思います。みんなで芦屋をもつとよいまちにしていくにはどうすればよいか考えてみようではありませんか。

社会科学訪問

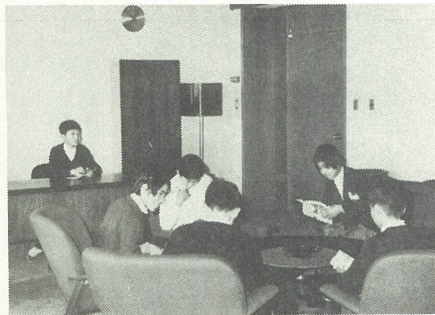
第9回

古都「京都」へ向けて、みなさんのおともだちを乗せた車は走りました。ここの北東部、宝池のそばにある「国立京都国際会館」が訪問先です。【訪問した人―宮川小学校六年の大西容子さん、須摩知子さん、名田正敏くん、橋本和子さん、藤江邦夫くん、船橋豊くん】

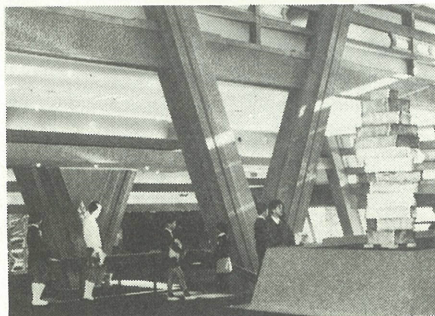
車の窓から見てみると、変わった形の建てものが目にはいつてきました。専用通路へさしかかるあたりには、各国の国旗をかかげるポールがたくさん並んでいます。あとで聞いたのですが、このポールは全部で百二十六本あるということです。玄関の前に立ってあたりを眺めました。すぐうしろに比叡山がそびえた静か



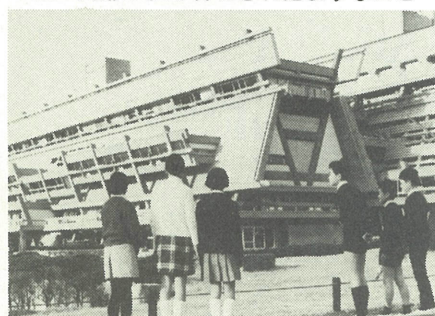
大会議場の代表者席にすわってみる



5かいにある議長室のひとつ



逆三角形が組み合わされたようなロビー



外観。内部の写真とくらべてみよう

な場所に、合掌づくりの様式をとりいれたこの建てものはたいへんふさわしく思いました。そして、外から見たときそんなに大きなとは感じなかつた建てものの中を実際に見学して、まさきき思ったのは、「大きい」ということでした

国立京都国際会館

約二千個のアルミ製のかざり、天井にはたたまにして二百畳という円盤があつた。正面にはビスケットのような形をした

ばくたちを玄関まで見送ってくださいた福井さんは、「大きくなつたらここで会議をするような人に、つまり国際的な舞台で活やくするようにならなつてくたさいよ」とおっしゃいました。

た。ばくたちに説明してくださいたかたは会館の業務課の福井さんです。国立京都国際会館は、昭和四十一年五月にできあがった国際会議場で、六階建ての館内に大会議場から小さな会議場までおよそ五十室があります。ほかに、議長さんや事務局長さんのための個室とかそれぞれの応接室、あるいは貴賓室などが用意されています。

何といつてもすばらしいのは大会議場でした。一階から四階までふきぬけで、二千人がはいれる東洋一の会議場で、何といつてもすばらしいのは大会議場でした。一階から四階までふきぬけで、二千人がはいれる東洋一の会議場で、

て、照明の効果を高めています。音響効果も、とくに気がくばられているそうです。左右には六角形の窓ごしに小さなへやがあり、六カ国のことばに同時通やくできる設備がととのつています。ほかの会議場もそれぞれ変化にとんだ美しいデザインで、あらゆるところにくふうがこらされていますが、斜めの窓に障子やふすまをはめた日本風の会議場は印象に残りました。ばくたちの学校へこられる各国のおまわりさんたちの「世界交通安全会議」も、この大会議場で三月二十四日から開かれるということです。